

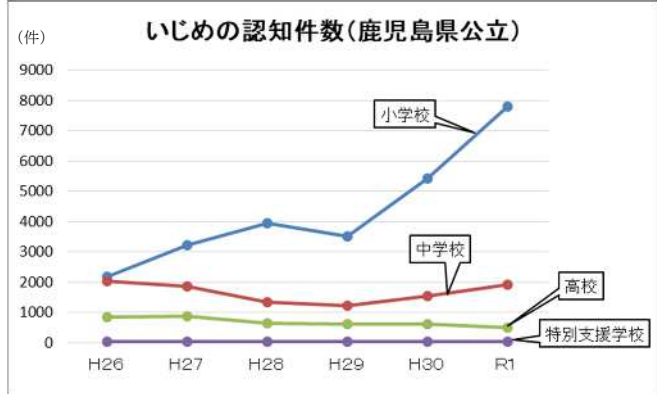
## 公立学校における令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況

義務教育課

鹿児島県公立学校における令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況は以下のとおりです。

### いじめの状況

本県では、いじめの認知件数が昨年度より 34.7% 増加しています。



この結果だけを見ると、いじめの行為が年々増加しているのではないかと心配になるかもしれません。しかし、県教委では、各学校に対し、いじめはどの学校でも、どの子にも起こり得るとして、冷やかしやからかいなどの軽微と思われる事でも「いじめの芽・兆候」として積極的に把握し、「まだ気付いていないいじめがある。」「1件でも多く発見し、それらを解消する」という姿勢で臨むよう指導しており、各学校がいじめを積極的に認知するようになったことが、認知件数の増加の背景にあると考えています。

<いじめの1,000人当たりの認知件数>

	H29	H30	R1
全国平均	30.9	40.9	46.5
鹿児島県	28.3	39.9	53.8

全国的に見ると、平成29年度と30年度は1,000人当たりのいじめの認知件数は全国平均を下回っていました。しかし、今回、各学校の積極的な取組により令和元年度で全国平均を上回りました。いじめの認知件数が多いことは、教職員の目が行き届いている証しであるということなのです。

また、いじめ発見のきっかけについては、次の3つが上位を占めています。

<いじめ発見のきっかけ>（鹿児島県公立：%）

1位	アンケート調査等	(59%)
2位	本人からの訴え	(15%)
〃	学級担任が発見	(15%)

アンケート調査がいじめ発見の約6割を占めることから、現在、各学校へは年間5回以上のアンケート実施を呼びかけています。

### 不登校の状況

令和元年度の不登校児童生徒数は、前年度と比べて小学校で39人、中学校で15人の増加、高校は30人の減少でした。

<不登校児童生徒数>（鹿児島県：人）

	H27	H28	H29	H30	R1
小学校	289	307	294	427	466
中学校	1458	1408	1369	1496	1511
高校	678	657	718	756	726

不登校の要因は以下のとおりです。

<小学校>

- 1位 無気力、不安（39%）
- 2位 親子の関わり方（17%）
- 2位 生活リズムの乱れ、あそび、非行（17%）
- 3位 いじめを除く友人関係（9%）

<中学校>

- 1位 無気力、不安（38%）
- 2位 いじめを除く友人関係（23%）
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行（8%）
- 4位 学業の不振（7%）

<高校>

- 1位 無気力、不安（28%）
- 2位 いじめを除く友人関係（14%）
- 3位 入学、転編入学、進級時の不適応（12%）
- 4位 進路に係る不安（9%）

不登校の要因を分析すると、「無気力、不安」、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」が全体の4割以上を占めています。その「無気力、不安」、「生活の乱れ等」について、具体的にヒアリングを行ったところ、スマートフォンやゲーム機器等の過度な使用によるものが多くなっていることが分かっています。

このため、児童生徒の家庭における規則正しい生活習慣を確立させるよう、学校と家庭とが連携し、児童生徒のインターネットの利用についてのルールづくりや、フィルタリングの設定等を確実にを行うよう指導してください。

<鹿児島県教育委員会ホームページ>

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/shidou/22koudou.html>